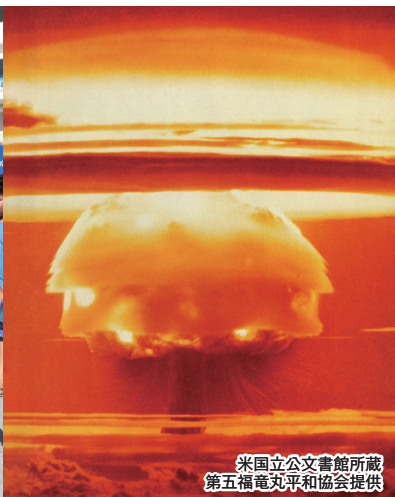


グローバルに核被害をとらえ直す ——いま改めて『ノーモア・ヒバクシャ』

Victims of Nuclear Weapons in Global Contexts:
Appealing — “No More Hibakusha” Now



米国立公文書館所蔵
第五福竜丸平和協会提供



Photo courtesy of Nevada National Security Sites



先着450人

入場無料

〈事前申込不要〉

直接会場へお越しください。

日時

2024年**11月30日**(土)

13:30~16:30 (開場13:00)

会場

広島国際会議場
地下2階 ヒマワリ

広島市中区中島町1番5号 平和記念公園内

主催／広島市立大学広島平和研究所
中国新聞社
長崎大学核兵器廃絶研究センター

後援／一般社団法人ヒロシマ平和研究教育機構

● 基調講演者

ロバート・ジェイコブズ (広島市立大学広島平和研究所教授)

● 報告者

伊東 英朗 (映画監督 / テレビディレクター)

瀬戸 麻由 (核政策を知りたい広島若者有権者の会(カクワカ広島)メンバー)

鈴木 達治郎 (長崎大学核兵器廃絶研究センター教授)

森田 裕美 (中国新聞社記者)

● モデレーター

梅原 季哉 (広島市立大学広島平和研究所教授)

第五福竜丸被曝から70年の節目である2024年は、映画「オッペンハイマー」が話題となり、人類初の核爆発だったトリニティ実験にも改めて注目が集まりました。冷戦期から核保有国は長年、核実験を繰り返してきましたが、放射能汚染による被害を知りながら、犠牲を強いてグローバル・ヒバクシャを生み出してきたとの重い指摘もあります。

本シンポジウムでは、核兵器に何らかの有用性を見出そうとする動きに対して、戦時、平時を問わず「使ってはならない」という規範をいま、どうやって強化するかという問いに向き合い、グローバル・ヒバクシャとの連帯から核廃絶につなげるための糸口を探ります。

事前上映会

映画 「サイレント・フォールアウト」

(監督:伊東英朗)



申込方法は裏面をご覧ください

基調講演者 Keynote Speaker



ロバート・ジェイコブズ

(Robert Jacobs, Professor, Hiroshima Peace Institute, Hiroshima City University)

1960年米国フロリダ州生まれ。2004年にイリノイ大学で博士号(歴史学)取得後、2005年より広島市立大学広島平和研究所講師として勤務。同研究所准教授を経て、2016年より現職。科学技術分野の歴史家として、核テクノロジーの歴史と環境への影響や、グローバル・ヒバクシャ問題に関する研究に長く取り組んできた。著書『Nuclear Bodies: The Global Hibakusha』の邦訳が2025年春に出版予定。

報告者 Speakers



伊東 英朗

(Hideaki Ito, Documentary Film Director and Television Director)

1960年生まれ。幼稚園教諭からテレビの世界へ転身し、番組制作の傍ら映画「X年後」シリーズを制作。2023年、3作目「SILENT FALLOUT」公開。ハンプトン国際映画祭など28の国際映画祭で公式上映されたり賞を受けたりしている。20年度芸術選奨文部科学大臣賞、日本記者クラブ賞特別賞、ギャラクシー賞大賞、日本民間放送連盟賞最優秀賞など受賞。著書に『放射線を浴びたX年後』(講談社)。



瀬戸 麻由

(Mayu Seto, Member of Kakuwaka Hiroshima)

核政策を知りたい広島若者有権者の会(カクワカ広島)メンバー。広島県呉市出身・在住。大学時代に外務省の委嘱を受け、被爆者とともに被爆の実相を伝える「ユース非核特使」として「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」に参加。2022年、カクワカ広島メンバーとしてウィーンで開催された核兵器禁止条約第一回締約国会議に参加。



鈴木 達治郎

(Tatsujiro Suzuki, Professor, Research Center for Nuclear Weapons Abolition, Nagasaki University (RECNA))

1951年生まれ。75年東京大学工学部原子力工学科卒。78年マサチューセッツ工科大学修士。88年工学博士(東京大学)。2010年1月より2014年3月まで内閣府原子力委員会委員長代理を務めた。核兵器と戦争の根絶を目指す科学者集団パグウォッシュ会議評議員として活動をしている。主要著書に『核兵器と原発』(講談社、2017年)など。



森田 裕美

(Hiromi Morita, Writer of the Chugoku Shimbun)

中国新聞社記者。お茶の水女子大学卒業後、1997年中国新聞社入社。報道部、文化部、論説委員などを経て、現在ヒロシマ平和メディアセンター。被爆者援護や世界の核被害者、原爆表現/表象、記憶の継承、ヒロシマを軸にした近現代史などについて取材を重ねる。共著に『広島～爆心都市からあいだの都市へ』(インパクト出版会)ほか。

モデレーター Moderator



梅原 季哉

(Toshiya Umehara, Professor, Hiroshima Peace Institute, Hiroshima City University)

1988年朝日新聞社に入社。長崎支局を振り出しに、ブリュッセル、ウィーン、ワシントン特派員、ヨーロッパ総局長、東京本社編集局長補佐などを経て、論説委員を最後に2021年、退職。広島市立大学大学院平和学研究科で博士号(平和学)を取得し、2024年より広島市立大学広島平和研究所教授。専門は国際関係論(非核規範の言説分析など)。

映画 「サイレント・フォールアウト」 事前上映会

■ 上映会に関するお問い合わせ先 ■
中国新聞社 ☎080-2920-2019

日時 11月30日(土) 午前10:30~11:46(開場:午前10:00)

場所 中国新聞社(広島市中区土橋町7-1)

※本社1階の正面玄関にお越しください。係員が会場へご案内します。
シンポジウムの聴講希望者を対象に、上映会を行います(76分)。

上映会のみ、事前申し込みが必要です。11月11日(月)締め切り(必着)

メール、ファクスのいずれかでお申し込みください。メール: peacemedia@chugoku-np.co.jp ファクス: 082-236-2807

名前、住所、来場人数(3人まで、名前も)、連絡先(メールアドレスあるいはファクス番号)をご記載ください。
定員60人。申し込み多数の場合は抽選。上映会参加の可否(抽選結果)を11月15日(金)までにお知らせします。



■ 上映会以外に関するお問い合わせ先

広島市立大学広島平和研究所

TEL: (082) 830-1811 FAX: (082) 830-1812

Eメール: office-peace@m.hiroshima-cu.ac.jp



※お車でのご来場はご遠慮ください。